

優秀賞

心—仲間の支えになりたい—

坂戸市立若宮中学校 2年

田邊 耀仁

「あいてにやさしく。あいてにやさしい気持ちになろう。平和が一番！」というスローガンを抱けた。就労継続支援B型事業所に、この夏、僕はボランティアに参加した。

就労継続支援B型とは、障害のある方が、一般企業に就職することに対して不安があったり、就職することが困難な場合に「雇用契約を結ばずに」生産活動などの就労訓練をおこなうことができる事業所及びサービスである。

ここのボランティア施設に応募したきっかけは、クッキーを作って販売しているところに興味を持ったからだ。そんな些細なきっかけである。「障害者と一緒に働く」というのも何だかイメージが付かなかった。僕が思っていた障害者は「不自由な人達」であった。しかし、一緒に働かせてもらい、僕の考えが全く違うものとなった。

朝早く、事業所へ行き挨拶も早々に、仕事が始まった。皆、黙々と仕事をしており、僕にもできるか不安だった。しかし、その不安は、初めだけであった。皆、優しく教えてくれたからだ。皆は、人生経験が豊富で、僕の方が、できないことが数多くあった。けれど、僕ができないことを誰も笑わないし、丁寧に教えてくれた。

クッキー作りでは、粉から作り焼いたものをパッケージした。そして、それを販売するためにバーコードシールを貼った。一つずつ心を込めて皆で作ったクッキーは、いつまでも、とても良い香りがした。

働くことは、大変だけれど皆で協力し合う大切さを学んだ。このような経験から、同じ景色を同じ目線でみることができる「心」を持った人達で、障害者として枠組みされてしまっているけれど、僕は「仲間」であると思った。

その仲間達と一緒に、お弁当を食べたり仕事が終わると、一緒に太陽の陽を浴びて同じ空の下「頑張ったね。」と誉め合った。僕がいたことで仕事を増やしてしまったのに皆、笑顔だった。仲間の心の温さに感謝した。誰かが誰かの支えになることは、助けを必要としている人達のためになることを学んだ。

僕はまた、ボランティアに参加したいと思う。でも今のままでは力不足である。だから、仲間のために、今よりもっと身も心も成長したい。相手に優しく、相手に優しい気持ちをもつ人が一人でも多くなるように、僕も変わりたい。